資料2

■第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に向けて

●本町を取り巻く状況等を踏まえた課題等について

（1）加速する人口減少（自然減）への対応

・国勢調査では、平成 12（2000）年をピークに人口が年々減少しており、将来推計では約 20 年後の令和 27（2045）年で人口は 5,000 人を下回ると予想されている。

・出生数は平成９（1997）年から約 82%減少し、令和７年では 24 人となっている。平成 11 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

・合計特殊出生率は令和２（2020）年現在で 1.02 と、人口置換水準[1]（約 2.07）を大きく下回っている。

【考えられる総合戦略上の課題】

→出生数の維持・回復

→子育て世帯の暮らしやすさ向上（定住促進）

→若年世帯が選択する「多様な生き方」の実現支援

（2）深刻化する少子高齢化への対応

・年少人口はピーク時の平成７（1995）から令和２（2020）年現在で 606 人まで減少している。

・老年人口は令和２（2020）年現在で 3,767 人となり、生産年齢人口 4,579 人に迫る勢いで現在までは増加している。

【考えられる総合戦略上の課題】

→健康的に生涯を送ることができる生活態様の実現

→地域の担い手確保

→地域を支える各種サービス等の維持

（3）若年世帯等の人口流出の抑制

・転出超過が平成 11（1999）年以降続いている。

・年齢別人口移動では 15～19 歳→20～24 歳が近年大幅な転出超過となっている。

・令和２（2020）年現在では川西市への転出超過が最も大きく－170 人である。また、豊能町、池田市、豊中市などへの流出もみられる。

【考えられる総合戦略上の課題】

→「住み続けたい」と思うまちづくり

→高校・大学卒業後のＵターン受け皿の確立

→若者が働ける場の確保

---

[1] 人口置換水準･･･将来の人口が現在規模を維持するために必要な合計特殊出生率のこと。

→関係人口・二地域居住の受け皿づくり
→能勢町への移住促進＜近隣地域等との差別化？＞

（4）結婚・子育て環境の整備・強化

・合計特殊出生率は令和２（2020）年現在で 1.02 と、人口置換水準（約 2.07）を大きく下回っている。（再掲）

・第３次子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査において、子どもは２～３人を希望する家庭が約７割を占める。

【考えられる総合戦略上の課題】
→希望出生数を実現できる環境の整備
→保育、教育負担の軽減
→子育て支援の充実

（5）地域経済・雇用の維持

・就業者総数は平成 22（2010）年の 5,465 人から令和２（2020）年現在は 4,390 人と、約 20%減少している。特に、男女とも 20 歳から 50 歳の就業者数が減少傾向にある。

・町内で就業する者は就業者全体の 51.2%と、町外就業への依存がうかがえる。

・令和２（2020）年現在の昼間人口比は 93.9%と、平成 22（2010）年の 85.8%と比べると上昇しているが、以前として流出超過である。

・基幹産業である建設業・製造業は 50～60 歳代の割合が高く、農業に至っては 60 歳以上が過半を占めており、将来の担い手不足が深刻化している。

【考えられる総合戦略上の課題】
→労働力（人手）不足への対応（後継者確保・技術継承含む）
→若年・中堅世帯の就業機会の確保
→町内雇用の創出
→働く場所の選択肢拡大

（6）交流人口・関係人口の拡大

・本町の観光入込客数は令和５（2023）年の約 39 万人から、令和７（2025）年は約 31 万人に減少している。

【考えられる総合戦略上の課題】
→観光入込客数・観光消費額の向上
→関係人口の創出（多様な地域資源の有効活用）

※①若年世帯が選択する「多様な生き方」の実現支援、②「住み続けたい」と思うまちづくり、③関係人口の創出（多様な地域資源の有効活用）の項目について、3グループに分かれて意見等交換をします。

●上位・関連計画の整理（概要）について

上位・関連計画	計画が捉える課題・ 計画の方向性	能勢町総合戦略改定に 向けた課題
国： **地方創生に関する総合戦略**	地方から都市圏への若者・女性の流出、地方の労働力不足、地域経済の縮小、生活サービス維持の困難化を課題として捉える。	**・若年層の流出抑制と定住促進** **・地域産業の担い手確保** ・人口減少下でも暮らしを支える生活環境の維持
大阪府： **第３期大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略**	取組みの基本方針として「若者が活躍でき、子育て安心の大阪」「大阪の経済を強くする」「人口減少下でも持続可能な地域づくり」を掲げる。 結婚・出産支援、人材育成、産業振興、交流人口拡大を重視。	**・若者・子育て世代が住み続けられる環境整備** **・地域産業と雇用の確保** **・交流人口・関係人口の拡大**による地域活力向上
能勢町： **総合計画**	「人・地域・地球の健康を守り 緑をつなぐ 開かれたまち能勢」を将来目標に、地域内外の多様な主体との連携により、関係人口の拡大、地域コミュニティの活性化、地域資源を活かした土地利用及び暮らしの質の向上を図り、持続可能な地域づくりを目指す。	**・関係人口･交流人口の拡大** ・地域コミュニティの維持・活性化 ・多様な主体との連携による地域づくり ・地域資源を活かした土地利用の推進 ・健康で豊かな暮らしを支える生活環境の維持・向上
能勢町： **人口ビジョン**	人口減少、少子高齢化の進行を背景に、「人づくりの拠点」を地方創生の核として位置付け、人材の育成や供給を目指している。	出生数減少や若者流出に対応し、地域を担う人材の育成と将来的なＵターン・定住につなげる取組
能勢町： **第３次能勢町子ども・子育て支援事業計画**	人口減少・少子高齢化の進行を前提に、能勢町に住み続け子育てしたいと思えるまちづくりを目指し、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを重視している。	・出産・子育ての希望を実現できる環境の整備 ・子どもの豊かな遊び・学びを支えるまちづくり ・子育て世帯・子どもの安心した暮らしの確保
能勢町： **教育基本方針**	持続可能な社会の創り手としての人材育成、地域と連携した教育の推進を掲げる。	義務教育学校や能勢分校との連携を通じて、地域への愛着と将来の担い手育成を図る
能勢町： **第５次能勢町地域福祉計画**	高齢化の進行や地域課題の複雑化に対応し、支え合いによる地域づくりを進める。	・地域活動や自治を支える担い手不足への対応 ・共助による地域運営体制の維持

能勢町： 第９期能勢町高齢者保健福祉計画・能勢町介護保険事業計画	高齢者が支え手・担い手として活躍しながら、支援が必要になっても地域で支え合い、自分らしく暮らし続けられるまちの実現を目指す。	・高齢者を地域の担い手として活用する仕組みづくり ・健康寿命延伸と介護予防の推進 ・地域包括ケアと支え合いによる安心して暮らし続けられる環境整備
能勢町： 都市計画マスタープラン	能勢町が持つ豊かな自然環境や歴史・文化の中で暮らせるまちづくり、限られた未利用地を活用した地域コミュニティの活性化や新産業の創出等に取組み、「里山未来都市」の実現を目指す。	・能勢町ならではの地域資源を活かした移住・定住促進及び**関係人口の拡大** ・未利用地や低未利用資源を活用した居住機能、交流機能、産業機能の確保 ・人口減少・高齢化が進む中での地域活動の担い手確保とコミュニティ維持 ・若年層の定着につながる雇用創出と地域産業の高付加価値化
能勢町： Ｒ６能勢町地域公共交通計画	高齢化・人口減少の進行、公共交通利用者減少、交通サービス維持の困難化を課題とし、日常生活を支える持続可能な交通ネットワークの構築を目指している。	・高齢者等の移動手段確保 ・人口減少下でも持続可能な地域交通の維持
能勢町： 空家等対策計画	人口減少や高齢化に伴い増加する空家について、発生抑制、適正管理、利活用促進及び管理不全空家の解消を進め、空家を地域資源として活用しながら地域の活性化につなげる。	・空家の発生抑制に向けた所有者支援の充実 ・空家を活用した移住・定住の促進 ・空家を地域資源として活用する地域活性化の推進